

農家の生活改善(11)

主婦がいつまでも若く美しくあるために

その1 働き方の工夫

婦人のページ

この頁は農家の居食住について考えていくページです 今月の担当は石井多賀恵さんです

農業事情や社会環境の急激な変化は、農家生活にもいろいろ影響を及ぼしていますが、なかでも主婦の労働は従来のそれに比べて、質も量も過重になってきました。このことは、主婦の健康管理はもとより、育児や教育等家庭生活にも多くの問題を起しています。そこで、農作業と家事作業を上手に整理して、快適な生活が営めるよう考えてみたいと思います。

まず農業と生活の関係ですが、端的に申しますと農業経営は生活の経済的裏付けとしての所得をうるものであり、家庭生活は働く力を産み出す、つまり労働力再生産の機能を受けもつものであります。したがって、どちらも同じように大切な役割を持っているわけです。労働力の再生産と言いますと、労働のための生理的エネルギーの補給のほかに、もっと広く、新しい働き方を工夫する力や、さらに広く考えて、次代の農業者としての子供のことまで含めて考えてみたいと思います。

ところで、労働が過重になった要因ですが、これにはいろいろなものがあります。機械の入ったこともその一つです。それは、一人一人の労働時間が短縮されたというよりも、農業従事者の数を少なくしたことです。したがって、機械化は農業労働から解放して生活の向上という基本的な役割を果すことになっていないようです。

また、兼業農家が増加しますと、家に通勤者もできますので、生活様式も複雑になります。例えば、服装も食事も睡眠時間も、勤め人の生活も加わって家事の負担が重くなります。家族みんなで農作業をしていた時にはそれなりの生活様式ができていたわけですが、現在ではそうはゆきません。

工夫しましょう

その他、要因はいろいろありますが、このような現状では、さらによいくらしを築くための創意工夫も必要でしょう。

そのために考えたいことは、

- 1、生活目標をはっきりさせ、その目標達成のための労力や予算等も生活と経営面とを区分する。
- 2、生活に計画をもち、労働、休養、余暇のバランスを保ち、節度のある生活態度を身につける。

これらのことを考えの基本として、家事や農作業の省力化、家族による作業分担、それに作業の共同化等が具体的な対策として必要でしょう。県北部地方で伸びている共同パンかまども、玉島市亀山にある共同給食施設も、十分な栄養をとることを目的としての主婦労働合理化施設です。

ところで、労働調整でもう一つ考えたいものは、筋肉労働の強さによるかげんです。つまり、エネルギー代謝率の度合による調整が必要です。筋肉労働の強さを示す指数として、エネルギー代謝率というものがあります。これは純粹の作業に要したエネルギー量が、基礎代謝率の何倍にあたるかを示したものです。

左下の表は、農作業と家事作業で代謝率の類似したものを並べた表ですが、体力の弱い者がエネルギー代謝率の高い仕事をすれば、休む時間の方が長くなって仕事にはなりません。ことに、農家の主婦は昔から重要な働き手ですが、働きざかりの20才代から40才代は同時に妊娠、出産、育児という負担が加わりますので、健康を損なうこともしばしばあります。

一日の疲れを翌日に持ちこさないで、主婦がいつ

岡山畜産便り 1965.04・05

までも若く美しくあるためにも、もっと働き方の工夫をしたいものです。そして、生活に希望と喜びをいつも持って、主婦は文字通り家庭の太陽でありますように。

作業別エネルギー代謝率

農 業		生 活	
作 業 名	エネルギー代謝率	作 業 名	エネルギー代謝率
		掃 除	1.1
		米 と ぎ	1.8
		入 浴	1.8
繩 な い	1.9	食事後片づけ	1.6~2.0
苗 と り	2.4	買 物	2.0
わ ら 納 束	2.7	洗 濯	2.5
動力耕うん機	3.1	布 団 し き	3.0
田 植 え	3.6	子 守 り (背 負 い 歩 き)	3.3
脱 穀 (動 力)	3.7	階 段 下 り	3.5
動力 散粉機	4.0	ふ と ん あ げ	4.3
稲 かり <small>(のこぎりがま)</small>	4.2	雑 巾 が け	4.4
畜力耕うん (馬)	5.0	ポ ン プ 水 汲 み	4.9
人 力 耕 う ん (備 中 く わ)	6.0		